

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名:府中町公共交通協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>広島第一交通株式会社</p>	<p>清水ヶ丘・桜ヶ丘地域デマンド型乗合タクシー「うぐいす号」</p>	<p>令和5年度新規事業のため、前回事業評価なし。</p>	<p>A 計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>【目標値】 実証運行(R3.8~R4.4)の実績を踏まえて設定 ①1日あたり利用者数 ・R5年度:8.00人/日 ②収益率 ・R5年度:8.5%</p> <p>【実績値】 ①R5 14.3人/日 ②R5 13.7%</p> <p>【達成率(R5目標値比)】 ①179% ②13.7%</p> <p>利用者数・収益率とも目標値を大きく上回っての達成となった。これは実証運行などにより地域に適したサービスレベルを設定できたことによるものと考えられる。</p>	<p>利用者数については目標値の約1.8倍となり、また、本格運行への移行から徐々に利用者数を伸ばしているなど、地域への定着が図られている。それに伴い収益率も目標値を大きく上回っている。 今後は、アンケート調査などにより継続的な利用実態の把握や課題改善などに取り組み、運行ルートやダイヤの見直しなど、さらなる利便性向上や利用促進を検討する。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	府中町公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>府中町は広島県の中央部に位置し、面積は10.41km<sup>2</sup>、人口は51,155人(R2国勢調査)の都市である。</p> <p>府中町の地域公共交通ネットワークは、鉄道利用圏の都市間移動を担うJR(山陽本線・呉線、芸備線)のほか、町内の拠点や居住地と広島市中心部を連絡する幹線路線バス・準幹線路線バス(広島電鉄、広島バス、芸陽バス)があり、別に路線バスを補完することを目的に、町内の拠点と居住地を連絡する町内循環線のコミュニティバス「つばきバス」がある。</p> <p>地域内フィーダー系統の運行対象となっている地域は町内北部の丘陵地帯に位置しており、昭和40年代に造成された住宅団地の一部である。最寄りの駅またはバス停までの距離や高低差があるほか、団地入口まで運行しているつばきバスについても、地域内の道路は幅員が狭く見通しも悪いため路線延長は困難な状況にあり、地域住民にとっての外出機会減少の原因ともなっている。</p> <p>こうした状況を踏まえ、令和元年11月に策定した府中町地域公共交通網形成計画では、町の地域公共交通ネットワークの現状に応じ、駅やバス停までの距離や高低差、地域公共交通ハンドブックやバスサービスハンドブック等の指針の基準を参考に公共交通不便地域等を設定し、これを解消・改善することを目標に掲げた。これに基づき、令和3年8月よりデマンド型交通の実証運行を実施、令和4年10月より本格運行に移行し、町内における交通不便地域の解消・改善を図っている。</p>



# 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価

## 府中町公共交通協議会

### 生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要

#### 府中町の概要

- ・人口 51,155人  
(令和2年10月現在)
- ・面積 10.41km<sup>2</sup>

#### 府中町公共交通協議会の構成員

府中町 広島県 学識(広島工業大学) 広島東警察署 中国運輸局広島運輸支局  
 広島電鉄株(一社)広島県タクシー協会 西日本旅客鉄道株 私鉄中国地方労働組合広島電鉄支部  
 (福)府中町社会福祉協議会 府中町老人クラブ連合会 府中町商工会 府中町学校PTA連絡協議会  
 府中町北部町内会連合会 府中町南部町内会連合会

#### 概 要

公共交通不便地域となっている清水ヶ丘・桜ヶ丘町内会地域において、住民の地域内外の移動手段確保を目的に、府中町が広島第一交通株に運行を委託し、令和4(2022)年10月より運行を開始した予約制の乗合タクシー(デマンドタクシー)。  
 清水ヶ丘・桜ヶ丘町内会地域の利用者の自宅と、町内の主要施設かつ交通結節拠点であるイオンモール広島府中などの6箇所ある共通乗降場所をドアツードアで結ぶ交通モードである。

#### 協議会の主な取り組み

- ・予約データや実態調査を元にデマンド型乗合タクシーの利用状況を把握し分析する。(事務局)
- ・交通事業者や地域との連携により利用実態やニーズの把握を行い、必要に応じて運行ダイヤやルートの変更を行う。(交通事業者、地域、事務局)
- ・対象地域の全世帯にチラシを配布するなど、周知・利用促進を行う。(事務局) など

#### 協議会における検討

- |               |                                 |
|---------------|---------------------------------|
| 協議会の開催状況      | 2回開催                            |
| ・第11回(6月30日)  | 確保維持計画について協議                    |
| ・第12回(12月20日) | フィーダー自己評価について協議<br>地域公共交通計画中間報告 |

## 定量的な目標・効果

### 清水ヶ丘・桜ヶ丘地域デマンド運行

(目標)①1日あたり利用者数:8.00人/日(本格運行前の実証運行での実績7.61人)

②収益率:8.5%(同実績7.9%)

(効果)当該デマンド運行の維持により、対象地域の高齢者等の移動手段を確保することができ、町内の公共交通不便地域を概ね解消することが可能。

## 昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

R5年度新規事業

## 実施した利用促進策

- ・実証運行の結果を踏まえ、利用実態に合わせて運行範囲やサービス内容を改善。
- ・愛称を公募し、「うぐいす号」と決定。
- ・本格運行に際し、リニューアルしたチラシを対象地域の全世帯に配布。

## 昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

R5年度新規事業

## 地域住民の意見の反映

- ・令和3年8月より実証運行を行い、同年9月に利用者に対するアンケートを実施。
- ・また、令和3年12月に清水ヶ丘・桜ヶ丘町内会区域の全世帯を対象にアンケート調査を実施。
- ・それらの結果を踏まえ、本格運行では運行日、使用車両、乗降場所等の変更を行った。

## 事業実施の適切性

- 清水ヶ丘・桜ヶ丘地域デマンド運行:計画どおり実施されている。
- ・本格運行開始から1年が経過し、利用者数は順調に増加傾向となっており、地域への定着が図られてきている。

## 目標・効果達成状況

- 清水ヶ丘・桜ヶ丘地域デマンド運行:
  - (目標①)1日当たりの利用者数は14.3人となり、目標である8.0人以上を達成した。
  - (目標②)年間の収益率13.7%となり、目標である8.5%以上を達成した。
- ・実証運行を踏まえた適切なサービス内容の改善を行っており、住民の移動ニーズに合わせた運行を行うことができた。

## 事業の今後の改善点

- 清水ヶ丘・桜ヶ丘地域デマンド運行:
  - ・利用者数については目標値の約1.8倍となり、また、本格運行への移行から徐々に利用者数を伸ばしているなど、地域への定着が図られてきている。
  - ・それに伴い収益率も目標値を大きく上回っている。
  - ・今後は、アンケート調査などにより継続的な利用実態の把握や課題改善などに取り組み、運行ルートやダイヤの見直しなど、さらなる利便性向上や利用促進を検討する。

# 交通体系図 別紙



凡例	
広島電鉄	2号線(永田・ニュータウン)
	2号線(山田)
	2号線(温品)
	熊野(向洋)線
	イオンモールシャトル
広島バス	つばきバス
	宇品線 深川線
芸陽バス	阿戸線、瀬野・広島線、南幸線、 三迫線、西条・広島線
第一交通	うぐいす号

## 運行系統図 別紙

系統名 清水ヶ丘・桜ヶ丘地域デマンド運行

運行形態 区域デマンド型

運行日・便数 平日：7便(8:00～18:50)、土曜日：6便(8:10～17:45)

運賃 通常200円、小学生または障害者及びその介助人は100円、小学生かつ障害者は50円、小学生未満は無料

